遊戯王デュエルモンスターズ GX Again The Distortion World

ゆーくん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
遊戯王デュエルモンスターズ　ＧＸ　Ａｇａｉｎ　Ｔｈｅ　Ｄｉｓｔｏｒｔｉｏｎ　Ｗｏｒｌｄ

【Ｎコード】
Ｎ７６８６Ｙ

【作者名】
ゆーくん

【あらすじ】
デュエルアカデミアを卒業して行った十代達だが、色々な都合で、再びデュエルアカデミアを一年生からやり直す事に！？更には十代のチートドローを上回る程のチートデッキを使う新たなキャラが入学したり！？様々な事が起こりつつも、やっぱりデュエルは楽しいと感じる学園生活が、訪れる！！

第一話　『正直オリカってチートカードばっかりになっちゃいますよね』　by

はい、ゆーくんです　↑

正直、ＧＸは好きなんですが、
内容をほとんど理解してなくて、
キャラ崩壊は勿論、

原作ぶち壊しストーリー等、
気に入らない人が出来ると思いますが、
今ＤＶＤでおさらいしながら、
書いてい来ますので、
宜しくお願いします

第一話　『正直オリカってチートカードばっかりになっちゃいますよね』　by

「全くーッ
なんてことナノーネッ

伝統あるデュエルアカデミアの受験生が皆、受験時間ギリギリに来るナンーテ」

此処、
実野町の山奥にある、
海馬ランドでは、今年度のデュエルアカデミア入試受験が行われていたのだが、
大半の受験生達は、
なんと、受験受付時刻ギリギリに来ていたのだ。

デュエルアカデミアの
クロノス・デ・メディチ教諭は、
嘆かわしい事態に頭を抱えて、
膝から崩れ落ちていた。

だが、そんなクロノスの周りには、
何人か、デュエルアカデミアの生徒が、
苦笑いを浮かべていた。

「まぁまぁ、
そんな落ち込むなよ、クロノス先生。
またオレ達と一緒なんだぜ？」

その中で、唯一苦笑いではなく、
満面の笑みを浮かべた、
赤い制服、
オシリスレッドの生徒、遊城十代は、
ぽんぽんとクロノスの肩を軽く叩く。

それに続いて、
周りにいた黄色の制服、
ラーイエローの、竜崎険山、
青色の制服、
オベリスクブルーの丸藤翔、
天上院明日香、
黒い服を着た、
万丈目准が続いて、
クロノスに励ましの言葉をかける。

「そ、そうだドン、クロノス先生
また一緒に過ごすザウルス」

「そ、そうッスよ、
気を落とさないで下さいよ」

「クロノス先生、ほら行きますよ？」

「全く、なんてだらし無いんだ。
それでも実技担当最高責任者か？」

皆の言葉をかけられ、
クロノスは気を立て直したかと思うが、
クロノスはふるふると震わせていた腕を、
いきなり振り上げた！

「うるしゃらシーノッ
出戻りボーイーズッ

貴方達にそんな事言われたくナイノームッ！」

そう、
此処にいる5人の生徒達は、
一度デュエルアカデミアを卒業したのだが、
卒業後、問題を起こし過ぎて、
またデュエルアカデミアの高等部を、
一年生からやり直しになったのだ。

「で、出戻りボーイズって・・・
クロノス先生それはないだろ」

「うるさいノーネッ
ドロップアウトボーイもとい、
出戻りボーイッ

元はと言えば、
貴方が入試試験に遅れて来てたのが悪いノーネッ」

クロノスの言う通り、
十代は高等部の入試試験日に、
電車のトラブルで、入試試験時間ギリギリにやって来たのだ。

だが、
受験番号１１０、
つまり、筆記試験１１０位の彼は、
彼の得意とするＥ・ＨＥＲＯデッキで、
見事、
クロノスをデュエルで叩きのめしたのだ。

そして、この十代の勝利によって、
デュエルアカデミアを入試する者達に、
ある噂が流れていたのだ。

それは、
入試時間ギリギリに行けば、
必ず合格出来るというものだった。

噂が流れる始めた頃は誰も信じなかったが、
噂とは時間が経つに連れ、
信憑性が高くなるというもの。

何時しか、誰もがその噂を信じ、

遂に今年の入試では、
大半の受験生が、わざと遅れて来る様になってしまったのだ。

「全くッ
こんな事、来年度には絶対させてはダメナノーネッ」

「だからって・・・
どうすんだよ、先生」

「決まってるノーネ。
私自身が、そんな馬鹿げた空想を、
木っ端みじんに砕いてアゲルノーネッ」

『えっ、ちょっ、えぇぇぇ!?』

「やべぇ、間に合うかな・・・」

十代達の叫びが響く海馬ランドから、
数十キロ。

駅のホームで、
携帯電話の画面を見つめる少年が一人。

彼の名は刹那小雪。
今年度の、
デュエルアカデミアの受験生だ。

だが、試験受付時間が過ぎているのに、
彼がこんな所にいるのは、訳があった。

それは、

「どうだ！？
戻ったか！？」

「はい！！
後もう少しで、線路に戻りますっ！！」

電車の脱線事故により、
立ち往生していたからなのだ。

本来なら、
試験受付時間に余裕に間に合っていたのだが、
朝からの事故により、
大遅刻してしまったのだ。

「電話は入れといたけど・・・。
入試デュエル、
終わってるかな・・・」

パタリと、携帯電話を閉じた時だった。

『お待たせ致しました。
電車が無事、線路に戻りました。
皆様に多大なご迷惑をおかけして、
申し訳ありませんでした。』

事故修復の知らせが、
ホーム全体に響き渡った。

「アンティークギアゴレームッ
プレイヤーにダイレクトアタックッ
アールティメットパウーンド！！」

クロノスの指令で、
フィールド上にいる、機械仕掛けの巨人が、
受験生に向け、拳を放つ！！

「うぐっ、
ぐぁぁぁぁぁっ！！」

その攻撃により、
受験生のＬＰは０になり、
受験生の負けが決まった。

「フンッ！！
受験生が時間ギリギリに来る等、
身の程をわきまえるノーネッ」

クロノスは、膝から崩れ、
両手を地面に付いて震えている受験生に対し、
ピシャリと言い放つと、
教員エリアへ戻って行った。

「全く、クロノス先生は厳しいぜ」

「何も
あそこまで言わなくても良いのね・・・。
アニキも負けてたらあんな風に言われたのかな？」

そんなクロノスのデュエルを見ていた十代達は、
各々の感想を呟いていた。

「フンッ
今年度の受験生ーは、
これで終わりナノーネ」

クロノスは特注のデュエルコートを脱ぎ、
席に座り込もうとしたが、
ふと、クロノスの携帯電話が鳴り響いた。

「んが・・・。
どちら様ナノーネ？
お、校長先生」

電話の相手はデュエルアカデミア校長、

鮫島のようだ。

『クロノス先生、
実は今、そちらに一人の受験生が向かっているのだが、
朝早くから電車が脱線したと連絡があった受験生でね。
受付時間外だが、
どうか試験を受けさせてやってくれないかね？』

「ハッヒフッヘッハァーッ！？
鮫島校長ッ
さすがにそれは出来マセーンーノッ。

受付時間ギリギリならともかく、
受付時間外にやってきた受験生を
試験に受けさせるナンーテ、
受付時間を守ってる他の受験生に、
示しがつかないノーネ・・・

エッ！？退職ッ！？
チョチョチョッ、
ちょっと待つーノ！！」

「クロノス先生、何やってるんだ？」

「新しいダンスドン？」

「いや、元からあんな奴だろ

クロノス教諭は」

鮫島校長との電話で、
何やらあたふたし、
不審な行動をしているクロノスを、
遠目から見ていた十代達は、
首を傾げつつも、
クロノスの事を見ていた。

「わ、わかったノーネ・・・、
その受験生の試験を行いマスーノ・・・・」

「すいません、遅れちゃって・・・」

電車が脱線したというアクシデントが起こったが、
なんとか間に合った・・・。

受付場所に立っていたデュエルアカデミアの関係者の人に軽く頭を

下げる。

「いやいや、
きちんと朝早くから連絡してくれたのは君だけだったからね。
全く困ったものだ」

受験会場に案内する合間に、
関係者の人（Kさんと呼ぼう）は、
説明してきた。

ふーん、
最近の受験生はそんな奴ばっかりなのか。
俺もそんな奴だって思われねぇかな。

そんな風に考えてたら、
何やら、リフト場所らしき所に着いた。

「さ、此処から受験会場フィールドに行ける。
君、頑張れよ」

Kさんは親指を立てて、
そんな事を言いながら去って行った。

うーん、
Kさん、それはクセェよ。

「ま、なんとかなるさね・・・。
よし、行くか」

俺はデュエルディスクを右腕に装着し、
リフトに乗って、受験会場フィールドに向かう。

「ん・・・、
おお、広れぇ」

リフトが上がりきり、
受験会場フィールドに着いた。
俺は周りを見渡すと、ポツリと呟く。

こんな所でデュエル出来るなんて・・・・。
気持ち良いねー・・・。

お、向かい側にいんのが
俺の試験相手か？

「こにゃにゃちワーノッ
私はデュエルアカデミア、
実技担当最高責任者の、
クロノス・デ・メディッチナノーネッ。
貴方には悪いーガ、このデュエルー、
私の勝ちナノーネッ」

ふーん、
俺に勝つ、ねぇ。
てか、
なんで実技最高責任者が
俺の相手なんだ・・・？

「ま、良いや。
ともかくデュエルしようぜ？
皆待ってるみたいだし」

「ふんッ
ドロップアウトボーイのクセに、

ナメた口利くんじゃナイノーヌッ」

噂では、
クロノス先生は確か
機械族デッキだったな・・・、
なら俺は・・・

「あんたには悪いが、
俺も勝たなきゃいけねぇんでね。
いくぜっ」

「貴方ごとき、
私のパワーで叩き潰してアゲルノーネッ」

『デュエル!!』

「先行は貰うノーネ。
ドロー」

クロノス・デ・メディッチ
ＬＰ４０００

刹那小雪
ＬＰ４０００

さてと、
どんなカードが来るんでしょ。

「私は古代の機械兵士、
『アンティークギアソルジャー』を、
守備表示で召喚ーヌ。
ターン終了ナノーネ。」

クロノス先生がディスクにカードを置き、
アンティークギアソルジャーが
フィールド上に召喚される。

・古代の機械兵士
『アンティークギアソルジャー』
レベル４
ＡＴＫ１３００
ＤＥＦ１３００

ていうか、何度見ても
ソリッドビジョンてすげぇな・・・

「俺のターン、ドロー」

さて、
どいつから行くか

「よし、
俺は錆びた時計城の騎士、
『クロックオールドギアーズナイト』を、
攻撃表示で召喚」

俺は手札の、
レベル４のモンスター、
クロックオールドギアーズナイトを、
ディスクに配置する。

錆びた時計城の騎士
『クロックオールドギアーズナイト』
レベル４
ＡＴＫ１８００
ＤＥＦ８００

「行けっ
クロックオールドギアーズナイト！
アンティークギアソルジャーを破壊！
ダウンザスラッシュッ！！」

攻撃宣言をしたと共に、
ギアーズナイトが、
クロノス先生のアンティークギアソルジャーに切り掛かるッ！

ギアーズナイトの剣が、
アンティークギアソルジャーを
真っ二つに切り裂き、破壊する！

破壊されたアンティークギアソルジャーは、
爆風を起こし、
その爆風はクロノス先生を包み込んだッ

「ノバシートッ
ケホリッケホリッ
ケムリーラ！！

・・・フンッ
珍しいカードデスーネ。
だがしかシーム、
そんなカードナンーテ、
我がモンスターには勝てませンーノ」

爆風が晴れれば、
クロノス先生は胸を張りながら、
大笑いしている。

うーむ、
なんか馬鹿にされた気が・・・。

「まだ終わってないぜ？
クロックオールドギアーズナイトの
効果発動ッ

このモンスターが守備表示モンスターを攻撃した時、
攻撃力が守備表示モンスターの守備力を
越えていれば、その数値分だけ、
ダメージを与えるッ」

「ノバニッ！？」

ギアーズナイトが、
クロノス先生に向け、
剣を振りかぶるッ！

ギアーズナイトの剣は、
クロノス先生を切り付けたと共に、
クロノス先生のＬＰを削るッ！

「ノバニャーッ！！」

クロノス・デ・メディッチ
ＬＰ４０００→３５００

刹那小雪
ＬＰ４０００

「まだだッ！
クロックオールドギアーズナイトの追加効果ッ
このカードが、
戦闘によって相手モンスターを破壊した時、
破壊したモンスターの
攻撃力分のダメージを相手に与えるッ！！」

「ナンデストーッ！？」

俺の宣言終了と同時に、
ギアーズナイトが振りかぶった剣を、
クロノス先生目掛け、
今度は切り上げるッ

「ノバリラリーラーッ！！」

クロノス・デ・メディッチ
ＬＰ３５００→１２００

刹那小雪
ＬＰ４０００

「ググググッ
なかなかやりマスーノッ」

「そりゃありがとさん・・・。
俺はカードを２枚伏せて、
ターンエンドッ」

俺はディスクにカードを２枚差し込み、
ターン終了宣言する。

さてと、
クロノス先生はどうするのかな？

「ふん、コテンパンにしてアゲルノーネッ

私のターンッ
ドローッ」

クロノス先生のドロー宣言に反応した、
デュエルコートが、カードを射出する。

良いなー、あの機能。

「私は手札から、狂った召喚歯車、
『クレイジーサモンギア』、発動ッ」

なんだ？
クレイジーサモンギア？

「このカードの効果により、
貴方のフィールド上のモンスター一体と同じレベル、種族のモンスターを2体、
貴方のデッキから、
特殊召喚させルーノッ！！」

俺のモンスターを？なにかのコンボか？
どっちにしても、
クロノス先生の好きにさせるかッ

「リバースカードオープンッ！！
『独断宣言』発動ッ！！」

「ニャニャ？『独断宣言』？」

「このカードは、

相手が俺のモンスターを
対象にしたカードの効果を発動した時、
発動出来る。
このターン、
俺のモンスターを対象にする全ての効果を無効にする。
そして、この効果は俺だけに適応する」

「ふんッ
まぁ、イイノーネ。
『クレイジーサモンギア』の効果はまだあルーノ。

自分の墓地から攻撃力１５００以下のモンスターを一体、フィールド上に特殊召喚し、
そのモンスターと同名のモンスターを、
手札、デッキ、墓地から、
全て特殊召喚すルーノッ」

「なッ！？」

クロノス先生のクレイジーサモンギアの発動により、
先程破壊したアンティークギアソルジャーが、
フィールドの地面を破壊しながら、
復活し、
更に２体のアンティークギアソルジャーが、
現れたッ

「まだまだ終わらないーノッ

更に手札から、
魔法の歯車『マジックギア』発動ッ

自分のフィールド上のアンティークギアと名の付くモンスター三体を破壊して、
デッキから、古代の機械巨人
『アンティークギアゴレーム』を
特殊召喚ッ！！

更に手札のアンティークギアゴレームを、可能な限り、特殊召喚スルーノッ」

「げっ、
エグイコンボだな・・・」

クロノス先生のフィールド上の
アンティークギアソルジャーが三体消え、
代わりに、アンティークギアゴレームが、
三体、地面を砕きながら現れたッ

「フフフ、
これだけではナイーノッ

これは来年度の受験生に向けた、
粛正デュエルナノーネッ

更に手札から、『融合』発動ッ

三体のアンティークギアゴレームを融合し、
古代の機械究極巨人、
『アンティークギア
アルティメットゴレーム』を、
特殊召喚ーッ！！」

「アンティークギアゴレームの
三体融合、すげぇ・・・」

三体のアンティークギアゴレームが、
混ざり合い、
更に大きな、アンティークギアアルティメットゴレームが、召喚さ
れたッ

古代の機械究極巨人
『アンティークギア
アルティメットゴレーム』
レベル１０
ＡＴＫ４４００
ＤＥＦ３４００

「オホホホッ
アンティークギアアルティメットゴレームで、
おもちゃの兵士を破壊してアゲルノーネッ」

「させるかッ
バトルフェイズ前に発動ッ

リバースカードオープンッ
トラップカード、『タイムアウト』ッ

このカードの効果により、
このターン、
俺のモンスターは破壊されないッ」

「だから何なノーネ。
ダメージは受けてもらうーノッ

行くノーネッ
アンティークギア
アルティメットゴレームッ

クロックオールドギアーズナイトを攻撃ッ」

アンティークギア
アルティメットゴレームが、
拳を振りかぶり、
ギアーズナイトを攻撃するッ

アルティメットゴレームの攻撃を、
ギアーズナイトは持ちこたえたが、ダメージは喰らうッ

クロノス・デ・メディッチ
ＬＰ１２００

刹那小雪
ＬＰ４０００→１４００

「く・・・っ
流石に、
先生やってるだけはあるな・・・」

「オホホホ、
私はターン終了スルーノ。

次のターン、
貴方の負けは決定ナノーネ」

クロノス先生は先程と同じ様に大笑いしている。
だが、

「俺が負ける？」

「クックック、
まだわからなイーノ？

アルティメットゴレームを越える
モンスターを、１ターンで召喚ナンーテ、
無理な事ナノーネ。

オホホホッ」

「・・・ふふふ」

「ナニがおかシーノ？」

「断言してやるぜ。
あんたは俺に負ける」

「な、何故ナノーネ！？」

全く、
これだから
強い奴は目が曇ってて困るな・・・

「今に見せてやるよ

俺のターンッ
ドローッ

俺は、調整者『チェーンズマッド』を
召喚するッ」

ディスクに置いたチェーンズマッドが、
フィールド上に現れる。

調整者
『チェーンズマッド』
レベル３

ＡＴＫ８００
ＤＥＦ３００

「チェーンズマッドの効果発動ッ

このカードを墓地に送り、
指定分のライフを払う事で、
払ったライフ１００ポイントにつき、
１２００以下のモンスターをデッキ、
または手札から特殊召喚するッ」

チェーンズマッドをディスクから
墓地に送る。

「俺はＬＰを４００支払い、
デッキから、１２００以下のモンスターを
４体、特殊召喚させてもらうぜッ

俺は、錆びた時計の歯車
『オーバー』、『ライト』、

『レフト』、『アンダー』を、
特殊召喚するッ」

錆びた時計の歯車
『オーバー』、『ライト』、
『レフト』、『アンダー』

レベル３
ＡＴＫ１０００
ＤＥＦ１０００

クロノス・デ・メディッチ
ＬＰ１２００

刹那小雪
ＬＰ１４００

「フフン、
ザコモンスターをいくら召喚しようが、
私のアルティメットゴレームを破壊する
事は出来マセンーノッ」

「俺のデッキにザコなんていないッ

クロックオールドギアーズナイトの
効果発動ッ

このカードがフィールド上に表側攻撃表示で存在する時、
このカードを墓地へ送る事により、
デッキ、「俺のデッキにザコなんていないッ

クロックオールドギアーズナイトの
効果発動ッ

このカードがフィールド上に表側攻撃表示で存在する時、
このカードを墓地へ送る事により、
デッキ、または手札から『朽ちた時計城』を発動する事が出来るッ

俺はデッキから、
『朽ちた時計城』を発動するッ」

「な、ナンナノーネ？」

フィールドカードゾーンに、
『朽ちた時計城』をセットすれば、
俺の後ろに、
ボロボロな時計だらけの城が現れるッ

「更に、朽ちた時計城の効果発動ッ

自分フィールド上に

『錆びた時計の歯車オーバー、
ライト、レフト、アンダー』
が存在するとき、
これら全てのカードと、このカードを墓地に送る事により、
デッキから『時計城の主
オールドギア・クロックギアーズロード』を特殊召喚するッ」

俺のフィールド上のモンスター、
錆びた時計の歯車『オーバー』、『ライト』、『レフト』、『アンダー』、
そして、時計城が崩れ、
消え去ったと同時に、
フィールド上に、
アルティメットゴレームに負けず劣らず、
巨大なモンスター、
時計城の主
『オールドギア・
クロックギアーズロード』

が召喚されるッ

時計城の主
『オールドギア・
クロックギアーズロード』

レベル８

ＡＴＫ４０００

ＤＥＦ５０００

「ふん、
少しばかり強力なモンスターを召喚した所ーデ、
私のアルティメットゴレームは倒せナイーノッ」

「甘いぜ、
クロックギアーズロードの効果発動ッ

このカードが『朽ちた時計城』の効果で、
召喚された時、墓地に存在する、
『錆びた時計の歯車』と名の付くモンスターを複数選択し、選択したモンスター全てを装備する事が出来るッ

俺は錆びた時計の歯車『オーバー』、
『ライト』、『アンダー』
を装備するッ

更にッ
錆びた時計の歯車『オーバー』
『ライト』、『アンダー』、
それぞれの効果を発動ッ」

「何！？
まだアルーノ！？」

「オーバーは、
装備したモンスターの攻撃力を１０００ポイントアップッ

ライトは、
装備したモンスターの攻撃力を５００ポイントアップッ

アンダーは、
装備したモンスターが、
攻撃時に発動した、
トラップ、マジックカードの効果を無効にし、それを破壊するッ」

時計城の主
『オールドギア・
クロックギアーズロード』

レベル８

ＡＴＫ４０００→５５００
ＤＥＦ５０００

「攻撃力５５００、
なかなかヤリマスーノ・・・。

しかし、その程度では、
私には勝てないーノッ」

「何？」

「貴方のクロックギアーズロードで、
私のアルティメットゴレームを倒しても、
まだ私のＬＰはまだ１００ポイント残りマース。

私の手札には、貴方のモンスターを全て破壊するカードがありますーノ。
更に、
アルティメットゴレームは、
破壊された時、墓地から、
アンティークギアゴレームを一体、
特殊召喚出来るノーネ。

次のターンッ
私の勝ちは決まってるーノッ」

「先生は機械族デッキのクセに、
機械の事良く知らねぇんだな」

「な、なんですと？」

「機械ってーのは、
『潤滑油』がねーと上手く動けねぇんだよ。

ラストカードだッ
手札より、
マジックカード、
『マシンオイル』発動ッ」

「ま、マシンオイル？」

「このカードはフィールド上に存在する、
一体の機械族モンスターを対象に発動する。
対象になったモンスターは、

攻撃力が１０００ポイントアップするッ
クロックギアーズロードに装備ッ」

ギアーズロードの身体の隅々に、
マシンオイルが巡り始め、
今まで重く、不快な摩擦音だった物が、
徐々に、軽やかになっていく。

そして、
マシンオイルがギアーズロードの全身に
巡った瞬間、
ギアーズロードが雄叫びをあげるッ

『オオオオォォォォォォッッ！！！』

時計城の主
『オールドギア・
クロックギアーズロード』
ＡＴＫ５５００→６５００
ＤＥＦ５０００

「攻撃力６５００ーッ！？」

「終わりだクロノス先生ッ

クロックギアーズロードッ
アルティメットゴレームを攻撃ッ

砕けろッ
マシンズディストーションプレスッ！！」

クロックギアーズロードの手が、
アルティメットゴレームの頭を掴み、
それを握り潰すッ

アルティメットゴレームは爆風を起こし、
破壊され、崩れ去った。

「そ、そんな・・・
私が負けるなンーテ・・・」

クロノス・デ・メディッチ
ＬＰ１２００→０
刹那小雪
ＬＰ１０００

ＬＰが０なった瞬間、
クロノス先生は膝から崩れ落ち、
がっくりと肩を落としている。

「ま、相手をナメた代償って事だね」

そんなクロノス先生に向け、
皮肉を言ってやった。

ちょっと罪悪感・・・

何はともあれ、
俺は無事、入試デュエルに勝利したのだ！

第一話　『正直オリカってチートカードばっかりになっちゃいますよね』　by

はい、ぶち壊しストーリー、
第一話でした

正直、
十代達がデュエルアカデミアを
再び一年生からやり直すなんて、
無理矢理です

後々考えて行こうと思ってますが、
現段階で、
特に詳しい理由は考えてません。

こんな小説でも良いと思って頂けるなら、
どうぞ宜しくお願いします

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7686y/

遊戯王デュエルモンスターズ GX Again The Distortion World

2011年11月22日23時53分発行